

景気動向調査

(飲食業、サービス業、卸・小売業、建設業)

調査時期：平成30年7月17～31日

調査対象期間：平成30年1月～6月

調査対象事業者数：小規模商工業者80社

調査票回収率：86.2%

塩釜商工会議所

(1)B.S.I値とは

ビジネス・サーベイ・インデックス(Business Survey Index)の略で、景況判断指数のひとつ。算出された数値がプラスであれば上向き、マイナスであれば下向きと判断する。

※(「上昇:好調の要素」の構成比-「下降:不調の要素」の構成比)÷2で求められる。

(2)総評

大半の項目で数値がマイナスとなった。特に「2.業界景気」では、飲食業、サービス業、卸・小売業が大幅に落ち込み、次期予測に目を移しても大きな変化がないことから、低迷は続く見通し。飲食業、サービス業の方を中心に、人口減少や観光対策についての声が多く寄せられており、人の流れの停滞が景気に直結している印象がある。

1.国内景気(△:プラス ▲:マイナス)

| 対象期間 | 全体平均 | 飲食業 | サービス業 | 卸・小売業 | 建設業 |
|--|-------|-------|-------|-------|-------|
| 当期(平成30年1月～6月期) | -20.9 | -31.8 | -26.7 | -16.7 | -8.3 |
| 次期予測(平成30年7月～12月期) | -19.0 | -22.7 | -33.3 | -6.3 | -13.9 |
| (1)当期 全体: 国内景気について、B.S.I値▲20.9と、悪化を示した。 業界別: 飲食業が同▲31.8、サービス業が同▲26.7と、全体平均を下回る結果となった。 | | | | | |
| (2)次期予測 全体: B.S.I値▲19.0と、引き続き低迷の予測となった。 業界別: 卸・小売業が同▲6.3と、改善の見通し。一方で、サービス業が同▲33.3、建設業が同▲13.9と、「当期」と比較して落ち込む予測結果となった。 | | | | | |

2.業界景気(△:プラス ▲:マイナス)

| 対象期間 | 全体平均 | 飲食業 | サービス業 | 卸・小売業 | 建設業 |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| 当期(平成30年1月～6月期) | -31.2 | -36.4 | -43.3 | -31.3 | -13.9 |
| 次期予測(平成30年7月～12月期) | -31.7 | -40.9 | -40.0 | -20.8 | -25.0 |
| (1)当期 全体: 業界景気について、B.S.I値▲31.2と、悪化を示した。 業界別: 飲食業が同▲36.4、サービス業が同▲43.3、卸・小売業が同▲31.3と、特に落ち込みが大きかった。 | | | | | |
| (2)次期予測 全体: B.S.I値▲31.7と、「当期」と比較してほぼ横ばいとなった。 業界別: 飲食業が同▲40.9、サービス業が▲40.0と、引き続き低迷の予測。建設業も同▲25.0と数値を落としている。 | | | | | |

3.売上(△:プラス ▲:マイナス)

| 対象期間 | 全体平均 | 飲食業 | サービス業 | 卸・小売業 | 建設業 |
|--------------------|-------|-------|-------|-------|------|
| 当期(平成30年1月～6月期) | -18.8 | -27.3 | -13.3 | -29.2 | -5.6 |
| 次期予測(平成30年7月～12月期) | -16.1 | -31.8 | -16.7 | -10.4 | -5.6 |

(1)当期
 全体: 売上について、B.S.I値▲18.8と、悪化を示した。
 業界別: 飲食業が同▲27.3、卸・小売業が同▲29.2と、全体平均より数値を落とし、特に苦戦していたことがわかる。

(2)次期予測
 全体: B.S.I値▲16.1と、数値は若干上向くも、低迷が続く予測。
 業界別: 飲食業が同▲31.8と引き続き低迷の予測。一方で、卸・小売業は同▲10.4と、改善の見通し。

4.営業利益(△:プラス ▲:マイナス)

| 対象期間 | 全体平均 | 飲食業 | サービス業 | 卸・小売業 | 建設業 |
|--------------------|-------|-------|-------|-------|------|
| 当期(平成30年1月～6月期) | -20.7 | -27.3 | -20.0 | -27.1 | -8.3 |
| 次期予測(平成30年7月～12月期) | -16.9 | -31.8 | -20.0 | -10.4 | -5.6 |

(1)当期
 全体: 営業利益について、B.S.I値▲20.7と、悪化を示す。
 業界別: 飲食業が同▲27.3、卸・小売業が同▲27.1と、特に苦戦していたことがわかる。

(2)次期予測
 全体: B.S.I値▲16.9と、数値は若干上向くも、悪化を示す。
 業界別: 飲食業が同▲31.8と、引き続き悪化の予測。一方で、卸・小売業は同▲10.4と改善の見通し。

5.製(商)品在庫(△:プラス ▲:マイナス)

| 対象期間 | 全体平均 | 飲食業 | サービス業 | 卸・小売業 | 建設業 |
|--------------------|------|------|-------|-------|-----|
| 当期(平成30年1月～6月期) | 0.9 | -9.1 | 10.0 | 2.1 | 0.5 |
| 次期予測(平成30年7月～12月期) | 5.5 | -9.1 | 15.0 | 8.3 | 7.7 |

※ここでは、プラスが「在庫過少」、マイナスが「在庫過多」を表す

(1)当期
 全体: 製(商)品在庫について、B.S.I値△0.9と、ほぼ横ばいの数値を示した。
 業界別: 飲食業では同▲9.1と、やや在庫過多の状況であることがわかる。

(2)次期予測
 全体: B.S.I値△5.5と、やや在庫過少。
 業界別: 飲食業の数値は不変、その他3業界では数値が伸びており、在庫過多の状況が続く見込み。

6.資金繰り(△:プラス ▲:マイナス)

| 対象期間 | 全体平均 | 飲食業 | サービス業 | 卸・小売業 | 建設業 |
|--------------------|------|-------|-------|-------|------|
| 当期(平成30年1月～6月期) | 0.4 | -9.1 | 6.7 | -4.2 | 8.3 |
| 次期予測(平成30年7月～12月期) | -5.4 | -13.6 | 3.7 | -6.3 | -5.6 |

※ここでは、プラスが「容易」、マイナスが「困難」を表す

(1)当期

全体：資金繰りについて、B.S.I値△0.4と、ほぼ横ばいの数値を示した。

業界別：飲食業が同▲9.1、小売業が同▲4.2となり、この2業界が特に苦戦した。一方で、サービス業、建設業ではプラスの数値を残している。

(2)次期予測

全体：B.S.I値▲5.4と、数値を落とした。

業界別：「当期」と比較して全業種で数値を落とし、悪化の予測となった。なかでも建設業が同▲5.6と、下げ幅が一番大きかった。

7.設備投資(△:プラス ▲:マイナス)

| 対象期間 | 全体平均 | 飲食業 | サービス業 | 卸・小売業 | 建設業 |
|--------------------|------|------|-------|-------|------|
| 当期(平成30年1月～6月期) | -0.8 | -9.1 | -7.1 | 4.2 | 8.8 |
| 次期予測(平成30年7月～12月期) | -2.0 | 0.0 | -7.1 | 2.1 | -2.9 |

(1)当期

全体：設備投資について、B.S.I値▲0.8と、ほぼ横ばいの数値を示した。

業界別：卸・小売業が同△4.2、建設業が同△8.8と、設備投資が増加傾向にあることがわかる。一方、飲食業では同▲9.1と落ち込んだ。

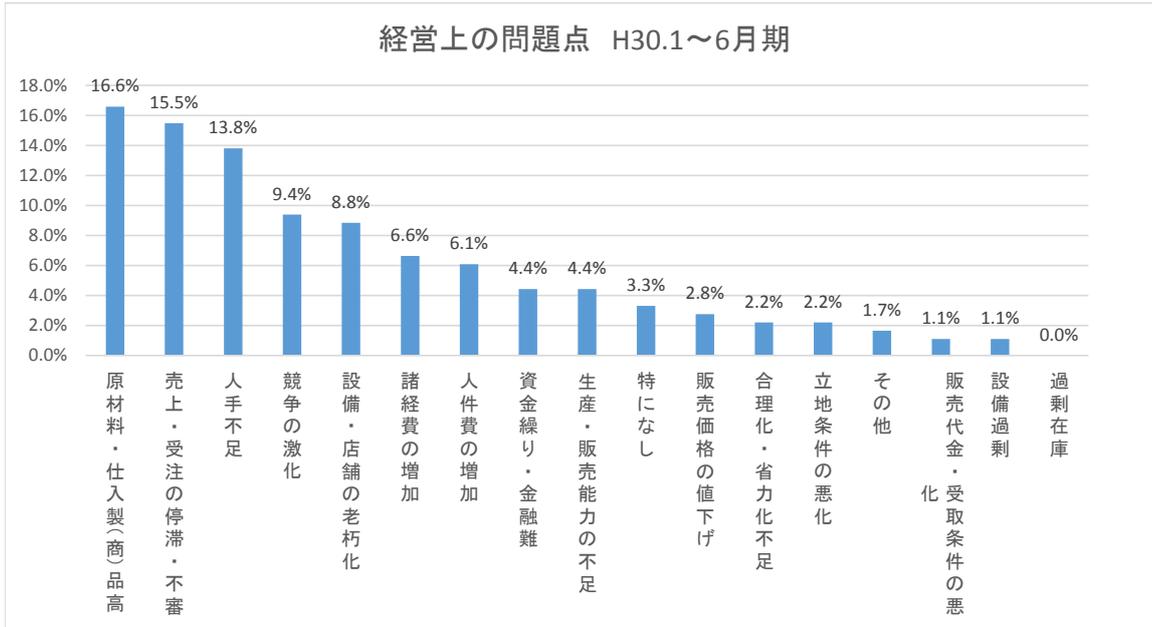
(2)次期予測

全体：B.S.I値▲2.0と、若干の減少傾向を示した。

業界別：飲食業が同±0に数値を戻し、増加予測となった。一方で、建設業は同▲2.9に数値を落とし、減少予測となった。

【設問2】 経営上の問題点

(1) 全体



(2) 業界別内訳

| | 合理化・省力化不足 | 設備・店舗の老朽化 | 原材料・仕入製(商)品高 | 販売代金・受取条件の悪化 | 設備過剰 | 売上・受注の停滞・不振 | 資金繰り・金融難 | 人手不足 | 人件費の増加 | 過剰在庫 | 販売価格の値下げ | 競争の激化 | 生産・販売能力の不足 | 諸経費の増加 | 立地条件の悪化 | その他 | 特になし |
|-------|-----------|-----------|--------------|--------------|------|-------------|----------|-------|--------|------|----------|-------|------------|--------|---------|------|------|
| 飲食業 | 0.0% | 7.1% | 17.9% | 3.6% | 3.6% | 14.3% | 10.7% | 21.4% | 10.7% | 0.0% | 3.6% | 0.0% | 3.6% | 3.6% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| サービス業 | 2.0% | 10.0% | 14.0% | 0.0% | 2.0% | 18.0% | 2.0% | 16.0% | 6.0% | 0.0% | 0.0% | 10.0% | 6.0% | 6.0% | 0.0% | 0.0% | 8.0% |
| 卸・小売業 | 1.6% | 11.5% | 18.0% | 1.6% | 0.0% | 18.0% | 4.9% | 4.9% | 3.3% | 0.0% | 3.3% | 8.2% | 6.6% | 8.2% | 6.6% | 1.6% | 1.6% |
| 建設業 | 4.8% | 4.8% | 16.7% | 0.0% | 0.0% | 9.5% | 2.4% | 19.0% | 7.1% | 0.0% | 4.8% | 16.7% | 0.0% | 7.1% | 0.0% | 4.8% | 2.4% |

(1) 全体

- ・「原材料・仕入製(商)品高」が16.6%を記録し、トップの割合となった。
- ・「売上・受注の停滞・不振」が15.5%、「人手不足」が13.8%と続く。

(2) 業界別内訳

- ・飲食業と建設業では「人手不足」がトップの数字を出し、サービス業、卸・小売業では「売上・受注の停滞・不振」が18.0%とこちらもトップの割合を残した。
- ・卸・小売業は「原材料・仕入製(商)品高」も同率でトップとなっている。

【設問3】 自由記述(経営上の関心事など)

| | |
|------|--------------------------|
| 震災 | |
| 飲食 | 市内歓楽街も震災特需が落ち着いた印象。 |
| 卸・小売 | 売り上げが震災後の落ち込みから回復できていない。 |
| 建設 | 復興需要に陰り。(2社) |

| | |
|------|---------------------------------|
| 補助金 | |
| 飲食 | 補助金を活用したいが、知識に乏しい。情報の提供をお願いしたい。 |
| サービス | 補助金があれば活用したい。(3社) |

| | |
|-------------|-------------------------------|
| (交流含)人口・高齢化 | |
| 飲食 | 人の流れがない。 |
| 飲食 | 観光客の増加は感じるものの、震災以前には戻っていない印象。 |
| 飲食 | 塩釜を発信して、観光客を増やしたい。 |
| サービス | 人口減少を肌で感じている。 |
| サービス | 週末の需要は高まっているが、平日で低迷。 |
| サービス | インバウンドについて、街ぐるみでの対策が必要ではないか。 |
| サービス | 外国人旅行客との会話に困る。 |
| 卸・小売 | 顧客の高齢化。 |

| | |
|------|---------------------------|
| 業界 | |
| 飲食 | 無断予約キャンセルは業界全体の課題。損失が大きい。 |
| サービス | 業界全体で暗い話題が多い。(2社) |
| 卸・小売 | 原料高騰(仕入値の上昇)。 |

| | |
|------|--|
| 経営 | |
| 飲食 | 人手不足。新卒採用、パート従業員の採用が追い付いていない。 |
| サービス | 繁忙期と閑散期の差が大きい。 |
| サービス | 後継者がいない。(3社) |
| サービス | 個人企業に対する、自治体や関連団体の協力が不可欠。 |
| 卸・小売 | 仕入値の上昇が連鎖し、配送費等に手数料を設けるなど対策をした。 |
| 卸・小売 | 売上等への、少子化、ライフスタイル、価値観の変化による売上への影響。(2社) |
| 卸・小売 | 販路の減少、価格競争の激化。 |
| 建設 | 専門職人の減少。 |
| 建設 | 人手不足対策として外国人を受け入れている。 |
| 建設 | 人手不足による受注の減少。 |
| 建設 | 人手不足により、同時期に舞い込んだ案件を選ばないといけない。 |
| 建設 | 従業員の高齢化と30~40代の人員不足。 |

| | |
|--------|---------------------------------|
| 社会(政治) | |
| 卸・小売 | 国はもっと地方に目を向けてほしい。 |
| 建設 | 働き方改革の結果次第で左右されることが出てくると思う。(2社) |